本記事はモデルアート社「モデルアート」2020年1月号より提供いたします

リビングモデラーの強い味方になるか?

VICから「VICカラー」発売

無臭の水性塗料 新たに現る

2019年の静岡ホビーショーで、まったく新しい塗料のデモンストレーションが行われた。新しい塗料は水性で臭いがなく、水での希釈が可能というもので、ここ最近登場している塗料のトレンドを意識したものだ。その名は「VICカラー」。サンプルのカラーチップを見ると、ソリッドカラーはもちろんメタリックカラーもかなり高性能な印象を受けたが、果たしでどんなカラーか？ 実査に塗装してみながら詳しく見ていこう（佐野博之/金澤尚憲/編集部）。

セルフレベリングの働きで筆ムラも目立たず 使ったエアブラシや筆は水でも洗浄可能だぞ

■臭いにサヨナラ

VICカラーは株式会社VICが開発した水性カラー。2019年5月の静岡ホビーショーでデモンストレーションが行われ、多くのモデラーを前にお披露目された。

水性カラーと言っても様々で、鼻をつく独特の臭気がわずかに感じられるものもあるが、VICカラーは全くの無臭というのが大きな特徴だ。原液のままだと筆塗りでもエアブラシ塗装でも濃く、希釈が必要な印象だが、メーカーによれば筆塗りの際は水で希釈し、エアブラシ塗装の際は専用のVICカラー薄め液の使用が推奨されている。筆塗りの場合塗った直後は刷毛ムラが目立つが、乾燥するにつれて徐々に平滑になっていき、滑らかな塗膜になっていく。エアブラシ用に塗料を希釈する際に使用するVICカラー薄め液は若干溶剤臭を感じるが、換気して使用すれば問題ないレベルだ。

■注目のメタリック系カラー

VICカラーのラインナップだが、同カラーの中核をなす水性アクリル塗料MAシリーズはおよそ130色を用意する。ブルーやレッドといった基本的なカラーはもちろん、ミリタリーモデルの塗装に欠かせない、いわゆる特色と呼ばれるカラーも充実している。

◀VICカラーのラインナップを紹介。写真①は、主力製品となる水性アクリル塗料（MAシリーズ）でおよそ130色がラインナップ。写真②は金属色（MHシリーズ）、写真③はVICカラー薄め液で、塗料の希釈などに必要なPAシリーズを構成する。このほか、SF系のロボット向けのカラーからなるSAシリーズ、特定キットとのコラボレーションによる専用色を擁するSPシリーズで構成される。

メタリックカラーからなるMHシリーズには、ガンメタルやクロームシルバーなどがラインナップするが、水性塗料とは思えない輝きとキメの細かさを見せてくれる。詳細は61、62ページをご覧いただきたいが、粒子のザラつきもなく、美しい輝きを放っている。水で希釈しても粒子が流れず、まったく新しい塗料であることを実感できるものだった。

なおVICカラーは基本的にツヤ消し（カラーにもよるが、半ツヤより若干劣る程度のツヤの具合）で、ツヤありにするためには、専用の添加剤が必要だ。また乾燥後も水に長時間浸かっていると塗膜が痛むので注意したい。

ミリタリーモデルの塗装を強力にアシストしてくれるであろうVICカラー。様々な水性塗料が登場している昨今だが、これは見逃せない塗料となるだろう。特にリビングモデラーにとっては強力なサポートになってくれるのではないだろうか。

※製品版の塗料のパッケージは画像で紹介しているものと変わる場合があります。

VICカラー 5つの特徴

ラベルの特徴的なイラストが魅惑する

ここからは、実際にVICカラーを様々な角度からテストして、その性能に迫っていく。まずはソリッドカラーからで、筆塗りやエアブラシ塗装はもちろん、塗料メーカー各社から発売されている様々な溶剤との相性も確認の意味で調べてみた。

①VICカラーは無臭（うすめ液を除く）
②塗料は水での希釈が可能。塗装用具の洗浄も水で
③エアブラシ塗装では専用溶剤で希釈する
④乾燥後はツヤ消しに。ツヤありにする場合は添加剤を加える
⑤ラッカー系クリアーでのコートが可能

VICカラーの主な特徴をおさらいする。溶剤を除き塗料には臭気がなく、塗装環境に制限のあるモデラーには朗報だ。塗装後の塗膜はツヤ消しになり、ラッカー系のクリアーでコートすることもできる（ツヤありにする場合には専用の添加剤を加える）。塗料の希釈には水が使えるのでコスパも○。用具の手入れも水でできる。

実際どんな塗料なのか？

VICカラーのポテンシャルをチェックする

①水で希釈して筆塗りしてみる

1回目

2回目

3回目

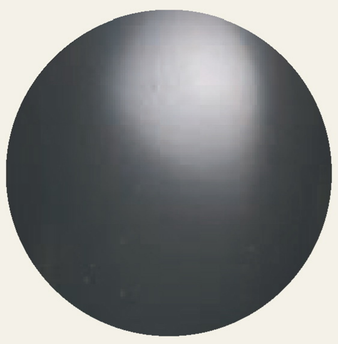
4回目

まずは筆塗りで試してみる。原液ではやや濃く感じられることから、ここでは水道水を加えて1:1で希釈し塗り重ねてみた。使用したカラーはMA016フィールドグリーン（ドイツ軍）。1回目の塗装を行ってみると、まだ刷毛目が目立ち、下地の色（黄色に近いオフホワイト）の影響が強く感じられる。2回目を塗ると、カラーの持つ本来の色味を感じさせるところも出てくるが、まだまだムラがある。3回目の塗り重ねを終えるとかなりしっかり色がのった状態になり、4回目でほぼムラなく、刷毛目のない美しいフィールドグリーンになった。

乾燥後は筆ムラ目立たず滑らか

②水で希釈してエアブラシで吹いてみる

1:1



1:1.5

エアブラシ塗装時の希釈用に専用薄め液が用意されているが、ここではテストの意味で塗料（MA300 佐世保海軍工廠標準色）1に対し水1と1.5の割合でそれぞれ希釈して吹き違いを見た。エア圧は0.04Mpaぐらいで、ノズルの口径から対象物までの距離は8～10cmほど。結果いずれの希釈でも吹けたが、希釈率は1:1程度が良さそうで、それを超えると初期は弾かれていく傾向が強くなり、重ねると流れてしまう。

希釈は1:1だと良好

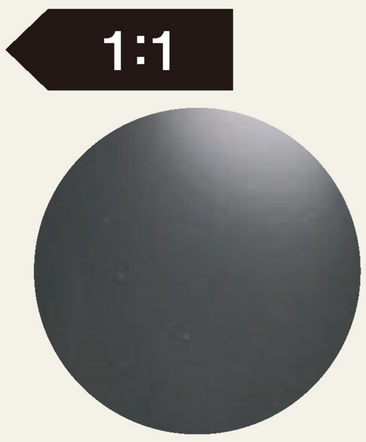
薄め過ぎると流れる

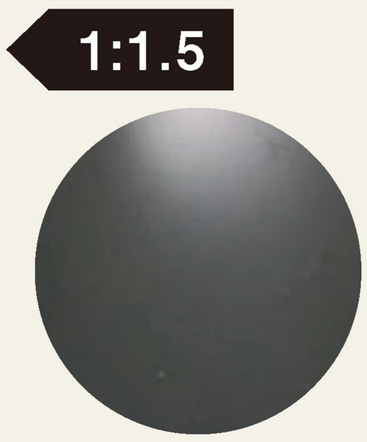
色味のチェックも兼ねて各色を吹いてみた

●MA016フィールドグリーン　●MA041日本海軍暗緑色(中島系)　●MA044コックピット色(中島系)

VICカラーの中心となるカラーラインナップMAシリーズの中から、いくつかピックアップし、水と1:1で希釈して塗装してみた（ここではMA016フィールドグリーン、MA041日本海軍暗緑色（中島系）、MA044コックピット色(中島系)）。VICカラーには基本となる原色のほか、米国をはじめロシアやドイツなど各国のAFV/航空機に使用出来るカラーに加えて、日本軍の航空機・艦船用のカラーも豊富に用意されている。

③サーフェイサーの上にエアブラシで吹き重ねる



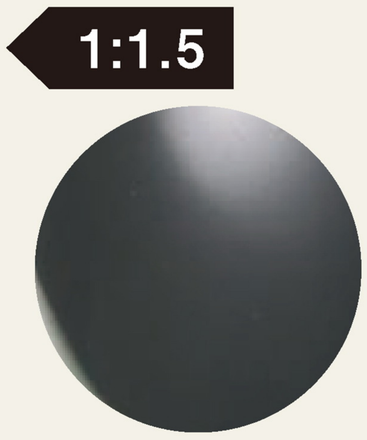


サーフェイサーを予め塗装したサンプルに、VICカラー（MA300 佐世保海軍工廠標準色）を吹き付けてみた。塗料1に対し水1.5の希釈でも綺麗に発色してくれるが、塗り重ねる際の特徴として、3層目を吹くと本来の色味に近づき、4層目でほぼ完了となる。飛行機や戦車など、塗料面積が広い物であれば、一通り吹き付けている間に塗った部分から乾燥してくるので、乾燥の待ち時間はそれほど気にならないだろう。

3層目で本来の色味に

間隔を開けて吹き重ねを

④専用溶剤以外で希釈して吹く



水で希釈でき、エアブラシでの塗装用に専用のうすめ液も用意されているVICカラーだが、テストの意味でラッカー系溶剤での希釈を行ってエアブラシ塗装してみた。ここで使用したのはタミヤのラッカー溶剤。MA300 佐世保海軍工廠標準色を1に対し、ラッカー溶剤を1、1.5でそれぞれ希釈して吹いた。水や専用溶剤で希釈して吹き付けるより、ラッカー溶剤で希釈して吹き付けたほうがややツヤがアップする印象を受けた。乾燥までの時間は、水や専用溶剤での希釈時よりも短く済んだ。

溶剤により希釈は可能

ツヤの具合に変化アリ

乾燥スピードが早まる

●VICカラーと専用溶剤以外の相性は?

	タミヤ ラッカー塗料	ガイアノーツ ブラシマスター	ガイアノーツ ツールウォッシュ	GSIクレオス Mr.カラー うすめ液	フィニッシャーズ ピュアシンナー	フィニッシャーズ ツールウォッシャー
ハタカ ラッカー塗料	○	○	×	×	×	×

タミヤ ラッカー溶剤でのテストのほかにも、塗料メーカー各社から出ている各種溶剤で希釈を行ってみた。ガイアノーツのブラシマスターでの希釈は可能だったが（①②）、ガイアノーツのツールウォッシュ、フィニッシャーズのピュアシンナーとツールウォッシャーでは、希釈しようとすると水と油のように分離して塗料と溶剤が混ざらない。GSIクレオスMr.カラー うすめ液では、塗料に色味の変化まで見られた(③④)。

ここからは、VICカラーのメタリック系カラーにスポットを当てて、その性質や色味を見ていく。最近の水性カラーはメタリック系の性能向上が著しいが、VICカラーのそれについてはどうか？筆塗りとエアブラシ塗装でそれぞれテストした（金澤尚憲／編集部）。

金属色をチェックする

筆塗りでチェック

◀クロームシルバーを筆塗りで試した。写真①はカラー原液を平筆で塗ったもの。画像は2回塗り重ねた状態で、1回目はかなり刷毛目の残る状態だが、2回重ねるとスジは残るものの、全体的に万遍なく色がのった。写真②は同色を水と1:1で希釈し筆塗りしたもの（1回目）。下地の黒が部分的に目立つ。写真③は、②の乾燥後塗り重ねたもの。なお、原液でも希釈した場合でも、塗り重ねで下地は溶けなかった。

エアブラシで吹き付けてチェック

●MH001クロームシルバー

●MH002ガンメタル

●MH005ダークアルミニウム

●MH006フラットアルミニウム

◀▲今回テストしたメタリック系カラー4色（クロームシルバー、ガンメタル、ダークアルミニウム、フラットアルミニウム）を、エアブラシ塗装で吹き付け色味を確認してみた。いずれのカラーも専用溶剤「VICカラー薄め液」と1:1で希釈して吹いたもので、現在流通している水性のメタリック系カラーの中では粒子感の最も目立たない部類のカラーであると感じられた。なお、VICカラーは水性ゆえ、有機溶剤を使用しているラッカー系塗料などに比べれば乾燥時間が長めであるが、エアブラシでエアだけ吹き付けて乾燥を早めることもできる。

きめ細かい粒子で滑らかな仕上がり
丈夫な塗膜で傷も付きにくい

①希釈は溶剤と1:1程度がベスト（ビン生では吹けない）
②濃いとダマになる
③薄めすぎると粒子が表面で動くので注意
④対象から遠めに薄くふわっと乗せるように吹くと○
⑤デカール軟化剤との相性に注意

サンプルの塗装過程で、VICカラーのメタリック系カラーに見られる特徴が見えてきた。塗料原液だと、筆塗りではやや刷毛目が目立ち、またエアブラシ塗装では塗料が詰まり気味で吹けず、希釈が濃いとダマになる。また薄め過ぎると粒子の流動性が高すぎる。エアブラシ塗装では専用溶剤で希釈し吹くが、希釈は1:1程度がベストのようだ。注意したいのは、デカール軟化剤との相性だ。塗装面にそのままデカールを貼って軟化剤を塗布すると、軟化剤の付着した部分の塗料が溶けてしまった。軟化剤を使う際は予めクリアー塗料でコートしておくと安心だろう。

※製品版の塗料のパッケージは画像で紹介しているものと変わる場合があります。